

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

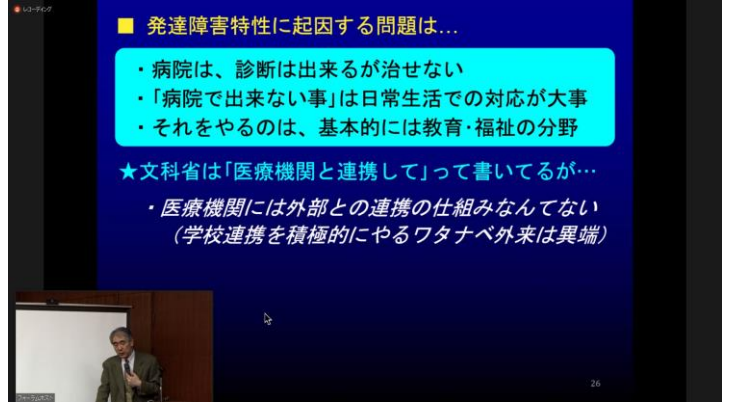
NITS・教職大学院等	国立大学法人秋田大学教職大学院 共催：教育文化学部附属教職高度化センター、秋田大学教職課程・キャリア支援センター 後援：秋田県教育委員会、秋田市教育委員会
コラボ研修プログラム	テーマ：令和の日本型学校教育の構築 “発達障害の今”－新たな支援の展開に向けて－
支援事業報告書	【NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修】 第 14 回あきたの教師力高度化フォーラム (2/17 開会行事・学部院生発表、2/18 現職院生発表、講演、シンポジウム) 開催日時：講演・シンポジウム令和 5 年 2 月 18 (土) 12 時 45 分～16 時 00 分 開催場所：秋田大学 (秋田県秋田市手形学園町 1-1) 参加人数：1 日目は総数 (126 人) 県内 26 人県外 0 人学内 100 人 2 日目は総数 (104 人) 県内 42 人県外 10 人学内 52 人

内容： <講演> 秋田県立医療療育センター：小児科・メンタルヘルス外来 渡部泰弘
<シンポジウム> シンポジスト：秋田大学医学部附属病院臨床心理士 渡邊真由美・
秋田大学教育文化学部准教授 鈴木徹・秋田県教育庁特別支援教育課指導主事 工藤智史、
コメンテーター：渡部泰弘、コーディネーター：秋田大学教育文化学部教授 武田篤、
・基調講演「発達障害とその周辺－医療の現場から－」障害の状況を山に例えると頂上ははっきりと見えるが、裾野は見えにくい。だからこそ家庭や学校で不応への対応の力を付けることが大事である。一次障害、二次障害の考え方紹介。自閉症スペクトラムは基本的には関係性の問題で、他者との関わりは大きい。学級経営が大切である。医療や相談機関とつなぐためには保護者も心配した段階で相談を勧めることが大事。医療・相談機関にはできるだけ適切な情報提供をお願いする。いくつかの具体事例の紹介。近年ゲーム・ネット依存の治療が増えている。インターネット依存度テスト (IAT) という簡便な方法があるので活用して欲しい。ゲーム・ネット依存の背後には発達障害が疑われる場合もある。外来での対応には限界がある。興奮かんしゃく ADHD 症状に効く薬はあるが、ゲーム依存そのものに効く薬は無い。特性の理解で保護者も対応しやすくなる。
・渡邊氏からは不登校と発達障害について提言。文科省調査結果などをもとに現状紹介があり、不登校の患者に占める発達障害の割合等を紹介。症状としての障害は医学的治療、能力としての障害は福祉や教育が対応すべきである。自力解決ができるかどうかの判断が大切で、長期的な支援が大事である。鈴木氏からは場面緘黙と ASD との関係について、場面緘黙の多くは ASD の傾向を持つことを定量的に明らかにした自身の研究結果を紹介し、話せないことへのサポート+ASD 特性に配慮したサポートが大事であることを提言。工藤氏は発達障害のある生徒の自己有用感を育む授業づくりについて実践事例が紹介された。特に地域資源活用して地域と協働しながらの実践は学校と地域が目標を共有すること、活動の言語化や教師からの価値付けが大事であり、それらが自己有用感の高まりにつながることを提言。このあと、コメンテーターから教育の中で不応を防ぐにはどうしたらよいかとの視点のもと、会場の参加者も加わったディスカッションが行われ、活発な意見交換が続いた。問題があるから何とかしなくては (マイナスからゼロへ) ではなく、目の前にいる子をもっとよくしていこう (ゼロからプラスへ) そんな支援をみんなで考えていこうというコーディネーターの言葉で締めくくられた。

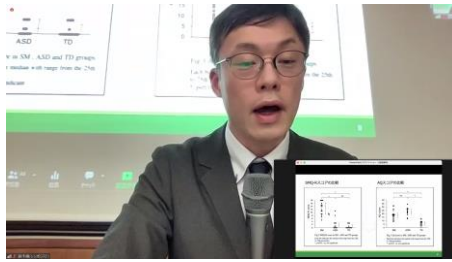
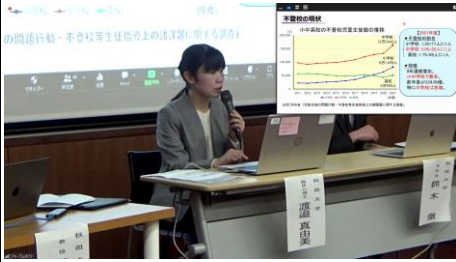
成果： 不応を前にした現場教員の新たな視点が開け、頼れる人や場所の引き出しが増える結果になったと思われる。アンケート結果 (回答数 58) からはとても満足 (51 人) どちらかという満足 (5 人) で合わせると 96. 6%になった。アンケート記述からは発達障害をどう受け止めて教育現場で子供にとって適切な支援をするかの大切さを感じた、学校経営・学級経営・授業改善などは発達障害への対応という視点でも大切であることが分かった、子の障害を認めない保護者やグレーという言葉の安易な使用などを反省する機会になったなどの意見が寄せられた。また、オンラインでの運用工夫やこれから取り上げて欲しいテーマ、内容などの要望や意見が寄せられ、今後の開催に向けて工夫すべきヒントをもらうことができた。

アイディアや工夫したこと：

- ・コロナの感染状況と遠隔地からの参加を考慮して、対面とオンラインによる参加の 2 通りの参加方式を採用して参加者の利便性にも配慮した。
- ・院生の研究成果発表の機会と講演・シンポジウムを合体した開会とすることで大学院への興味・関心の高まりと教育の現代的教育課題への対応研究の深まりに通じるよう企画運営を行った。
- ・中教審答申が取り上げる提言等について、県内に在住する身近な人物等に登壇してもらい、議論することによって、今何が求められ、どのようにするべきかの具体的なヒントを参加者がより身近で希望をもてる雰囲気とした。



＜講師：渡部泰弘＞



事例（架空）

- ・中学校に入った頃から授業中によく居眠りをするようになった。
- ・テスト中など眠るつもりはなくても寝てしまい、成績が低下してきた。
- ・夜は十分に眠って朝は目覚まし時計で起き、遅刻なく登校している。
- ・担任の先生が心配し、受診を勧められた。

① 調べた結果、過眠症の診断

- ◆薬物療法
- ◆生活の工夫

② 調べた結果、過眠症ではなかった

- ◆睡眠環境や生活の工夫
- ◆睡眠以外の面もよく確認すると、忘れが多い、感覚過敏などの発達障害の症状が認められることもある。

結果から言えること①

□研究の仮説は支持できる

SM児の多くはASDの特徴がある

振り返り授業での生徒の発言内容 (n=38) *は内訳として対象生徒の発言ラベル数

- 学習を頑張った理由 (9発)
 - ・子どもたちのため(7)(2発)
 - ・父兄を喜ばせてあげたいため(1*)
 - ・褒めてもらえること(1)
- 地域資源を活用した授業を通じて、楽しかったこと(12)
 - ・準備・製作した物が相手に使ってもらっているのを見たこと(4)(*)
 - ・たくさんの人と話せて良かったこと(4)(*)
 - ・お家さんに感謝されたこと(2)
 - ・お家さんに褒められたこと(2)
- 地域資源を活用した授業を通じて、成長したと思うことは何か(17)
 - ・コミュニケーション力の向上(4)(3)
 - ・協調性(4)(3)
 - ・自分で他者名指し的に認められることができることが増え、自信の向上(1)
 - ・人のために役立つ、という意識がなると実感(1)
 - ・困難な対応(1)
 - ・社会経験の拡大(1)

＜シンポジスト：渡邊真由美＞

＜シンポジスト：鈴木徹＞

＜シンポジスト：工藤智史＞



＜コーディネーター：武田篤＞

NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修
 令和の日本型学校教育の構築
 「発達障害の今」～新たな支援の展開に向けて～

第14回
**あきたの
 教師力
 高度化
 フォーラム**

期日
 令和5年 2月17日(金)・18日(土)

会場
 秋田大学60周年記念ホール
 教育文化学部3号館145教室 他

対象
 全国の教職員・研究者・教育委員会指導主事・
 研修員・教員志望学生・院生等

日程
1日目 2月17日(金)
 9:00 開場・受付(秋田大学60周年記念ホール前)
 9:30 開会行事
 9:50 秋田県総合教育センターとの連携による発表
 秋田県発達障害者支援会(学部生)の発表
 秋田県総合教育センター研修員の発表

11:40 昼食・休憩
 13:00 研究成果発表Ⅰ(学部卒業生)

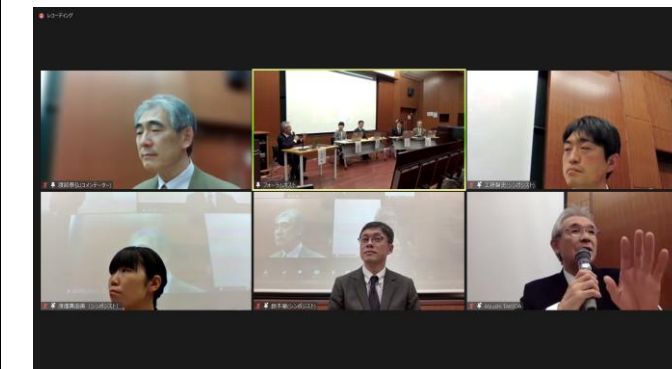
2日目 2月18日(土)
 9:30 開場・受付
 10:00 研究成果発表Ⅱ(現職教員院生)
 11:40 昼食・休憩
 「発達障害とその周辺－医療の現場から－」
 講師 小栗 美沙(アセスメント) 渡部 泰弘

14:05 シンポジウム
 令和の日本型学校教育の構築
 「発達障害の今」～新たな支援の展開に向けて～
 シンポジスト 渡邊 真由美
 秋田大学教育文化学部
 秋田大学教職大学院
 秋田県総合教育センター
 秋田県発達障害者支援会
 コメンテーター 工藤 智史
 秋田県総合教育センター
 コーディネーター 渡部 泰弘
 秋田大学教育文化学部
 15:40 閉会



※新型コロナウイルス感染症の状況により、計画を変更する可能性があります。
 変更がある場合には、本学教育文化学部HP(https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/)に記載します。【申込方法】お申し込みください。

【主催】秋田大学教職大学院 秋田大学教育文化学部総務課
 【共催】秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター/ 秋田大学教職課程・キャリア支援センター
 【後援】秋田県教育委員会/秋田市教育委員会
 秋田大学教育文化学部総務課
 ☎010-8502 秋田市平手町学町1-1
 ☎018-889-2509
 hyosou@jimu.akita-u.ac.jp



＜ディスカッションの様子＞

＜本事業のパンフレット＞